

2024・一・17【角2024】選21句

角 20 24 龍天に登る土龍の穴を抜け  
角 20 24 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 20 24 すかすかの東京タワー春の雪  
角 20 24 薔薇と薔薇敵意あらはに薔薇園に

角 20 24 朝寝して傾いてゐるバルザック  
角 20 24 直径より高さの勝るパイン缶

角 20 24 ぶらんこに入口ふたつ透きとほる  
角 20 24 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 20 24 をさな子にもろうて老も春の風邪  
角 20 24 佐渡は北土佐は南や天の川

角 20 24 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 20 24 送受信終へし朝顔から萎む

角 20 24 影の字に京の字のある涼しきよ  
角 20 24 銀杏散る神の砂金を惜みなく

角 20 24 片蔭のその垂直の部分かな  
角 20 24 闇の字に音の字小さし細雪

角 20 24 薬局の棚にピールとチーズかな  
角 20 24 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 20 24 夜濯の白くて薄きもの二三

角 20 24 夜濯の命洗うて嵩もなき

角 20 24 汗かきの蟻はをらずや蟻の列

2024・一・18【角2024】選16句

角2024 龍天に登る土龍の穴を抜け

角2024 さどは北とさは南や天の川

角2024 すかすかの東京タワー春の雪

角2024 送受信終へし朝顔から萎む

角2024 朝寝して傾いてゐるバルザック

角2024 銀杏散る神の砂金を惜みなく

角2024 ぶらんこに入口ふたつ透きとほる

角2024 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角2024 をさな子にもろうて老も春の風邪

角2024 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角2024 影の字に京の字のある涼しさよ

角2024 片蔭のその垂直の部分かな

角2024 汗かきの蟻はをらずや蟻の列

角2024 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角2024 薔薇と薔薇敵意あらはに薔薇園に

角2024 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

2024・一・20【角川俳句賞2024】

選19句

17行3段組14ポ  
2024年1月20日21:21<1>桐10

角2024 龍天に登る土龍の穴を抜け

角2024 八月が生れ代つて蟬の殻

角2024 すかすかの東京タワー春の雪

角2024 八月の快樂の果ての蟬の殻

角2024 俳諧の地獄極楽山笑ふ

角2024 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角2024 朝寝して傾いてゐるバルザック

角2024 送受信終へし朝顔から萎む

角2024 石鹼玉手玉に取るは難しき

角2024 銀杏散る神の砂金を惜みなく

角2024 ぶらんこに入口ふたつ透きとほる

角2024 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角2024 近所の子「凧を取らせてください」と

角2024 わが墓は吹雪の中の雪達磨

角2024 をさな子にもろうて老も春の風邪

角2024 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角2024 影の字に京の字のある涼しさよ

角2024 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角2024 薔薇と薔薇敵意あらはに薔薇園に

2024・一・24【角川俳句賞2024】

選15句

12行3段組14ポ  
2024年1月24日 20:15 へ1 へ桐10

角 持ち帰る選外の句や山笑ふ

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 懐しき人となるべき炬燵かな

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 これはもう吹雪の中の雪達磨

角 朝寝して傾いてゐるバルザック

角 近所の子「凧を取らせてください」と

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 空蟬が空気に触れてしまひけり

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 送受信終へし朝顔から萎む

2024・一・25【角川俳句賞2024】

選15句

12行3段組14ポ  
2024年1月25日 11:44 <1 > 桐10

角 我の句に我が丸して暖かし

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 懐しき人となりたや日向ぼこ

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 吾や今吹雪の中の雪達磨

角 朝寝から覚めて傾くバルザック

角 近所の子「凧を取らせてください」と

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 空蟬が空気に触れてしまひけり

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

2024・2・13【角川俳句賞2024全129句】選24句

17行3段組14ポ 2024年2月13日 20:42 へ1 へ桐10

角 我の句に我が丸して暖かし 角 寸胴の高さ頼もしパイ缶

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 夜濯の白くて薄きもの二三

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 内側を擦って蟬と蟬の殻

角 朝寝から覚めて傾くバルザック 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 佐渡は北土佐は南や天の川

角 昭和の子「風を取らせてください」と 角 日本は白木の柱秋深し

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 悲しみの薔薇も交へて薔薇の園 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 片蔭に垂直の影垂れ下る 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 大晦日今年別れし人の数

2024・～・14【角川俳句賞2024全144】選21句

17行3段組14ポ 2024年2月14日 09:20 へ1 へ桐10

角 我の句に我が丸して暖かし 角 内側を擦って蟬と蟬の殻

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 朝寝から覚めて傾くバルザック 角 頼もしや我に桃缶パイン缶

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 億万の白木の柱秋深し

角 昭和の子「風を取らせてください」と 角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 悲しみの薔薇も交へて薔薇の園

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 夜濯の白くて薄きもの二三

2024・2・15【角川俳句賞2024全153】選23句

17行3段組14ポ 2024年2月15日 11:29 <1 > 桐10

角 傲然とまだ傲然と春田かな 角 内側を擦つて蟬と蟬の殻

角 我の句に我が丸して暖かし 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 頼もしや我に桃缶パイ缶

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 朝寝から覚めて傾くバルザック 角 鹿や角ふるひ落して顔ちひさ

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 昭和の子「風を取らせてください」と 角 家々の白木の柱秋深し

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 夜濯の摘み洗ひのもの二三

2024・2・15【角】 選25句

17行3段組14ポ 2024年2月15日 18:33 へ1 へ10

角 傲然とまだ傲然と春田あり 角 夜濯の摘み洗ひのもの二三 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 我の句に我が丸して暖かし 角 内側を擦つて蟬と蟬の殻

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 朝寝から覚めて傾くバルザック 角 頼もしや我に桃缶パイン缶

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 昭和の子「凧を取らせてください」と 角 鹿や角ふるひ落して顔ちさき

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 家々の白木の柱秋深し

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 すれ違ふ長き電車や夏休 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

2024・3・6【角川俳句賞2024 全162句】 選28句

17行3段組14ポ 2024年3月9日 07:53 へ1 へ桐10

角 我の句に我が丸して暖かし 角 すれ違ふ長き電車や夏休 角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 龍天に登る土龍の穴を抜け 角 片蔭のその垂直の部分かな 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 夜濯の摘み洗ひのもの二三 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 朝寝から覚めて傾くバルザック 角 内側を擦つて蟬と蟬の殻 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 昭和の子「風を取らせてください」と 角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 頼もしや我に桃缶パイナップル

角 がりがりと田螺を砕く魚の顎 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 鹿や角ふるひ落して顔ちさき

角 飛べる虫も飛べない虫も花の頃 角 猫が生れ鼠が生れ夜の長き

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 干乾びて茄子一族の唐辛子

角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 家々の白木の柱秋深し

2024・3・11【角川俳句賞2024】

選24句

17行3段組14ポ 2024年3月11日 16:32 へ1 へ桐10

角 暖かや「ボールを取らせてください」と

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 我の句に我が丸して暖かし

角 夜濯の摘み洗ひのもの二三

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 内側を擦つて蟬と蟬の殻

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 朝寝から覚めて傾くバルザック

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 鹿や角ふるひ落して顔ちさき

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 家々の白木の柱秋深し

角 飛べる虫も飛べない虫も花の頃

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 我や今吹雪の中の雪達磨

2024・4・2【角川俳句賞2024】

選27句

12行3段組14ポ 2024年4月2日 18:18 ^1 <桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 暖かや「ボールを取らせてください」と

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 寅さんの先達寺田寅彦忌

角 我の句に我が丸して暖かし

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 夜濯の摘み洗ひのもの二三

角 朝寝から覚めて傾くバルザック

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 鹿や角ふるひ落して顔ちさき

角 長旅の後の産卵初燕

角 家々の白木の柱秋深し

角 飛べる虫も飛べない虫も花の頃

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

2024・4・5【角川俳句賞2024/229句】 選34句

12行3段組14ポ 2024年4月5日 21:12 へ1 桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 新緑の「ボールを取らせてください」と

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 朝寝から起きて傾くバルザック

角 たまに会ふ後輩と行く螢狩

角 鹿の角切られし後の小さき顔

角 我の句に我が丸して暖かし

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 水のなきモータープール日の盛り

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 転落注意の柵なき蟻地獄

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 誘はれて摘草に行く支度なり

角 毛ものらのご先祖さまの毛虫なり

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 長旅の次は出産初燕

角 千ありしものを千切つて百足かな

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 束の間を遊べやお玉杓子の尾

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 夜濯の摘み洗ひのもの二三

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 朝寝から起きて傾くバルザック

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 我の句に我が丸して暖かし

角 転落注意の柵さへもなき蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 毛ものらのご先祖さまの毛虫なり

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 千ありしものを千切つて百足かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 誘はれて摘草に行く支度なり

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 長旅の次は出産初燕

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 私の句に我が丸して暖かし

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 末黒野に吸はるる雨の行方かな

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 朝寝から起きて傾くバルザック

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 毛ものらのご先祖さまの毛虫なり

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 連結の千を千切つて百足かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 無骨なる枯木のかたち春を待つ

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 長旅に続く出産初燕

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

2024・4・7【角川俳句賞2024 全259】 選33句

12行3段組14ポ 2024年4月7日 08:57 へ1 桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 銀杏散る神の金貨を惜みなく

角 我の句に我が丸して暖かし

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 末黒野に吸はるる雨の行方かな

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 朝寝から起きて傾くバルザック

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 毛ものらのご先祖さまの毛虫なり

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 連結の千を千切つて百足かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 長旅に続く出産初燕

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 初花のふたつも咲いて花見かな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

2024・4・9【角川俳句賞2024 全263】 選31句

12行3段組14ポ 2024年4月9日 19:20 へ1 桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 我の句に我が丸して暖かし

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 末黒野に雨たつぷりと吸はれけり

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 下々の虫下々の毛虫の毛並かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 連結の千を千切つて百足かな

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 夜濯のつまみ洗ひのもの二三

角 長旅に続く出産初燕

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 初花のふたつも咲いて花見かな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 飛ぶ虫も飛ばざる虫も花の頃

角 切られては角なき鹿の小さき顔

2024・4・10【角川俳句賞2024全273】選33句

12行3段組14ポ 2024年4月10日 13:30 へ1 桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 我の句に我が丸して暖かし

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 末黒野に雨たつぷりと吸はれけり

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 夏痩せて筆一本の男かな

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 をさな子にもろうて老も春の風邪

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 龍天に登る土龍の穴を抜け

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 連結の千を千切つて百足かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯を終へて寝しなのミステリー

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 初花のひとつふたつの花見かな

角 故郷は三桁の番地孟蘭盆会

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 夜桜や人にも羽化の如きもの

角 爽やかに翼を広げ滑空す

2024・4・10【角川俳句賞2024全282】選36句

12行3段組14ポ 2024年4月10日 19:40 <1 > 桐10

角 春暁の始発電車で京へ発つ 角 夜桜や人にも羽化の如きもの 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 我の句に我が丸して暖かし 角 母の日や母の育てしものを供花 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 末黒野に雨たつぷりと吸はれけり 角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの 角 切られては角なき鹿の小さき顔

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 すれ違ふ長き電車や夏休 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 誘はれて摘草に行くその途中 角 夏痩せて筆一本の男かな 角 ベーコンの焦点が旨し漱石忌

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし 角 転落注意の立札もなし蟻地獄 角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 長旅に続く出産初燕 角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 クレヨンで強く塗り付けチューリップ 角 連結の千を千切つて百足かな 角 数へ日を数へ尽して子を産めり

角 初花のひとつつたつの花見かな 角 夜濯を終へて寝しなのミステリー 角 二転三転三寒四温四捨五入

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 故郷は三桁の番地孟蘭盆会 角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

2024・4・11【角川俳句賞2024 A 全298】 選36句

12行3段組14ポ 2024年4月11日 11:00 <1 > 桐10

角 春暁の始発電車の眩しけれ 角 夜桜に羽化する人もありぬべし 角 故郷は三桁の番地孟蘭盆会

角 すかすかの東京タワー春の雪 角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな 角 送受信終へし朝顔から萎む

角 我の句に我が丸して暖かし 角 母の日や母の育てしものを供花 角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 末黒野に雨たつぷりと吸はれゆく 角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる 角 破門され苔の緑は青黴に 角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 をさな子にもろうて老も春の風邪 角 影の字に京の字のある涼しさよ 角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 誘はれて摘草に行くその途中 角 すれ違ふ長き電車や夏休 角 かりかりのベーコン旨し漱石忌

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし 角 夏瘦の筆一本の男なり 角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 長旅に続く出産初燕 角 転落注意の立札もなし蟻地獄 角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 クレヨンでぐいぐい塗つてチューリップ 角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな 角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 初花のひいふうみいよ花盛り 角 志す千の長さの百足かな 角 二転三転三寒四温四捨五入

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな 角 夜濯を終へて寝しなのミステリー 角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

2024・4・12【角川俳句賞2024 A 全33句】選43句

17行3段組14ポ 2024年4月12日 09:30 へ1 桐10

角 春暁の始発電車に日が真横

角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 破門され苔の緑は青黴に

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 我の句に我が丸して暖かし

角 影の字に京の字のある涼しさよ

角 かりかりのベーコン旨し漱石忌

角 末黒野に雨たつぷりと吸はれゆく

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 寅さんの先輩寺田寅彦忌

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 満天の星に隙間や隙間風

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 夏瘦の筆一本でありにけり

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 啓蟄の穴と芽吹の緑色

角 幼くて百に足らざる百足の足

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯を終へて寝しなのミステリー

角 クレヨンでぐいぐい塗ってチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 初花のひいふうみいよ花盛り

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 ほころぶはほろびにつづく桜かな

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 導火線引いて花火の上りゆく

角 夜桜に羽化する人もありぬべし

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 母の日や母の育てしものを供花

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

2024・4・12【角川俳句賞2024プランA 全35句】 選47句

- 角 春暁の始発電車は日が真横  
角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの  
角 爽やかに翼を広げ滑空す
- 角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 破門され苔の緑は青黴に  
角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや
- 角 我の句に我が丸して暖かし  
角 影の字に京の字のある涼しさよ  
角 木の葉とは異なる色の木の葉髪
- 角 末黒野に雨たつぷりと吸はれゆく  
角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
角 懐しき人になりたや日向ぼこ
- 角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 かりかりのベーコン旨し漱石忌
- 角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 夏瘦の筆一本でありにけり  
角 言ふなれば寅さん寺田寅彦忌
- 角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 夏瘦の筆一本の遅筆なり  
角 満天の星に隙間や隙間風
- 角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 金魚には金魚の友や鱒ふりぬ  
角 数へ日を数へに数へ子を産めり
- 角 啓蟄の穴と芽吹の緑色  
角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
角 我や今吹雪の中の雪達磨
- 角 長旅に続く出産初燕  
角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな  
角 舞ひ上る灰の冷めゆく焚火かな
- 角 クレヨンでぐいぐい塗ってチューリップ  
角 幼くて百に足らざる百足の足  
角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし
- 角 初花のひいふうみいよ花盛り  
角 夜濯を終へて寝しなのミステリー  
角 二転三転三寒四温四捨五入
- 角 ほころぶはほろびにつづく桜かな  
角 石鯀の薄きが割れて夏の果  
角 へうへうと枯木は立てり春を待つ
- 角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 夜桜に羽化する人もありぬべし  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 導火線引いて花火の上りゆく
- 角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 導火線引いて花火の上りゆく  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 送受信終へし朝顔から萎む

2024・4・12【角川俳句賞2024 プランA 全360】 選180句

- 角 春暁の始発電車の窓眩し  
 角 春の暁の始発電車の窓眩し  
 角 すかすかの東京タワー春の雪  
 角 破門され苔の緑は青黴に  
 角 我の句に我が丸して暖かし  
 角 影の字に京の字のある涼しさよ  
 角 末黒野に雨たつぷりと吸はれゆく  
 角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
 角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
 角 すれ違ふ長き電車や夏休  
 角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
 角 夏瘦の筆一本の遅筆なり  
 角 誘はれて摘草に行くその途中  
 角 金魚には金魚の友や鱗ふりぬ  
 角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
 角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
 角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
 角 下々も下々々の毛虫の毛並かな  
 角 長旅に続く出産初燕  
 角 幼くて百に足らざる百足の足  
 角 クレヨンでぐいぐい塗つてチューリップ  
 角 夜濯を終へて寝しなのミステリー  
 角 初花のひいふうみいよ花盛り  
 角 石鯨の薄きが割れて夏の果  
 角 ほころぶの中のほろぶも桜かな  
 角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
 角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
 角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
 角 夜桜に羽化する人もありぬべし  
 角 導火線引くやうに揚花火かな  
 角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
 角 送受信終へし朝顔から萎む  
 角 母の日や母の育てしものを供花  
 角 爽やかに翼を広げ滑空す

2024・4・13【角川俳句賞2024 プランA 全365】 選47句

- 角 春暁の始発電車の窓眩し  
角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 破門され苔の緑は青黴に  
角 我の句に我が丸して暖かし  
角 影の字に京の字のある涼しさよ  
角 末黒野に雨たつぷりと吸はれゆく  
角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 夏瘦の筆一本の遅筆なり  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 金魚には金魚の友や鱗ふりぬ  
角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな  
角 長旅に続く出産初燕  
角 幼くて百に足らざる百足の足  
角 クレヨンでぐいぐい塗つてチューリップ  
角 夜濯を終へて寝しなのミステリー  
角 初花のひいふうみいよ花盛り  
角 石鯨の薄きが割れて夏の果  
角 ほころぶの中のほろぶも桜かな  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 夜桜に羽化する人もありぬべし  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 爽やかに翼を広げ滑空す
- 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや  
角 木の葉とは異なる色の木の葉髪  
角 懐しき人になりたや日向ぼこ  
角 かりかりのベーコン旨し漱石忌  
角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり  
角 満天の星に隙間や隙間風  
角 数へ日を数へに数へ子を産めり  
角 数や今吹雪の中の雪達磨  
角 舞ひ上る灰の冷めゆく焚火かな  
角 舞ひ上る灰の冷めゆく焚火かな  
角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし  
角 悴んで軋める家の中にをる  
角 二転三転三寒四温四捨五入  
角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

2024・4・16【角川俳句賞2024 プランA 全365】 選46句

- 角 春暁の始発電車に待ち合はせ  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 腰かけて尻あたたかき春日かな  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 薔薇と薔薇既に敵意の如きもの  
角 我の句に我が丸して暖かし  
角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
角 草萌えてヒット弾まぬ恨みあり  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで  
角 夏瘦の筆一本の遅筆なり  
角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
角 金魚には金魚の友や鰭ふりぬ  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 下々も下々々の毛虫の毛並かな  
角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 夜濯を終へて寝しなのミステリー  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 石鯀の薄きが割れて夏の果  
角 長旅に続く出産初燕  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 クレヨンでぐいぐい塗りぬチューリップ  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 初花のひいふうみいよ花盛り  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 ほころぶのほろぶころぶも桜花  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 舟消えて水尾残りたる秋の水  
角 夜桜に羽化する人をまのあたり  
角 爽やかに翼を広げ滑空す

2024・4・17【角川俳句賞2024 プランA 全38】 選47句

- 角 春暁の遠ざかりゆく始発駅  
角 夜桜に羽化する人をまのあたり  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 春光のベンチに掛けて尻ぬくし  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 我の句に我が丸して暖かし  
角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの  
角 草萌に打球弾まぬ恨みかな  
角 叩かれて鱒の面目なかりけり  
角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
角 夏痩せて筆一本の遅筆なり  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 金魚には金魚の友や鱒ふりぬ  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 夜濯を終へて寝しなのミステリー  
角 長旅に続く出産初燕  
角 石鮫の薄きが割れて夏の果  
角 クレヨンでぐいぐい塗りぬチューリップ  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 初花のひいふうみいよ花盛り  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 散ることを今は急がず遠霞  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 ほころぶのほろぶころぶも桜花  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 舟消えて水尾残りたる秋の水
- 角 爽やかに翼を広げ滑空す  
角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや  
角 木の葉とは異なる色の木の葉髪  
角 懐しき人になりたや日向ぼこ  
角 かりかりの焼ベーコンや漱石忌  
角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり  
角 満天の星に隙間や隙間風  
角 数へ日を数へに数へ子を産めり  
角 我や今吹雪の中の雪達磨  
角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼  
角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし  
角 二転三転三寒四温四捨五入  
角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

2024・4・17【角川俳句賞2024 プランA 全39句】 選47句

- 角 春暁の遠ざかりゆく始発駅  
角 夜桜に羽化する人をまのあたり  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 春光のベンチ尊し尻ぬくし  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 我の句に我が丸して暖かし  
角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの  
角 ぶらんこに裏と表や透きとほる  
角 叩かれて鱒の面目なかりけり  
角 草萌に打球弾まぬ恨みかな  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで  
角 夏痩せて筆一本の遅筆人  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 金魚には金魚の友が鱒ふりぬ  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 転落注意の立札もなし蟻地獄  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな  
角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 夜濯の後の寝しなのミステリー  
角 長旅に続く出産初燕  
角 石鯨の薄きが割れて夏の果  
角 クレヨンでぐいぐいと塗るチューリップ  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 初花のひいふうみいよ花盛り  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 散ることを今は急がず遠霞  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 ほころぶのほろぶところぶ桜花  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 舟消えて水尾も消えゆく秋の水

2024・4・17【角川俳句賞2024 プランA 全387】 選50句

17行3段組14ポ 2024年4月17日 17:41へ1 桐10

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 舟消えて水尾も消えゆく秋の水

角 我の句に我が丸して暖かし

角 母の日や母の育てしものを供花

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 ぶらんこに裏と表や透きとほる

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 草萌に打球弾まぬ恨みかな

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 かりかりの焦がしーコン漱石忌

角 がりがりと田螺を砕く魚の顎

角 お屋敷の塀の片蔭長きかな

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 夏痩せて筆一本の遅筆人

角 満天の星に隙間や隙間風

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 金魚には金魚の友が鰭ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 長旅に続く出産初燕

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 クレヨンでぐいぐいと塗るチューリップ

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 初花のひいふうみいよ花盛り

角 石鯰の薄きが割れて夏の果

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 散ることを今は急がず遠霞

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 ほころぶのほろぶところぶ桜花

角 故郷は三桁の番地孟蘭盆会

2024・4・19【角川俳句賞2024プランA 全38句】 選49句

17行3段組14ポ 2024年4月19日 22:21 へ1 桐10

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 舟消えて水尾も消えゆく秋の水

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 我の句に我が丸して暖かし

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 草萌に打球弾まぬ恨みかな

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の塀の片蔭長きかな

角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌

角 がりがりと田螺を砕く魚の顎

角 夏痩せて筆一本の立ち難し

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の友が鰭ふりぬ

角 満天の星に隙間や隙間風

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 クレヨンでぐいぐいと塗るチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 散ることを今は急がず遠霞

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 ほころぶのほろぶところぶ桜花

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 先祖代々大方知らず秋の雲

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 導火線引くやうに揚花火かな

2024・4・20【角川俳句賞2024 プランA 全39句】 選48句

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 母の日や母の育てしものを供花

角 そしてその水尾も消えゆく秋の水

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 我の句に我が丸して暖かし

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 夏瘦の筆一本にして遅筆

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 草萌に打球弾まぬ恨みあり

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長く続きけり

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の友が鱗ふりぬ

角 満天の星に隙間や隙間風

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 我や今吹雪の中の雪達磨

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 クレヨンでぐいぐいと塗るチューリップ

角 石鮫の薄きが割れて夏の果

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 散ることを今は急がず遠霞

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 ほころぶのほろぶところぶ桜花

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 先祖代々大方知らず秋の雲

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・㊦・20【角川俳句賞2024 プランA 全40句】 選句

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 そしてその水尾も消えゆく秋の水

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 大方の先祖知らねど春の雲

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 我の句に我が丸して暖かし

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 夏瘦の筆一本にして遅筆

角 かりかりの焦がしペーコン漱石忌

角 草萌に打球弾まぬ恨みあり

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長し有難し

角 満天の星に隙間や隙間風

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我こそは吹雪の中の雪達磨

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 クレヨンでぐいぐいと塗るチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 散ることを今は急がず遠霞

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 ほころぶの中のほろぶも桜花

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・▶・20【角川俳句賞2024 プランA 全410】 選48句

17行3段組14ポ 2024年4月20日 18:02 へ1 桐10

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 そしてその水尾も消えゆく秋の水

角 大方の先祖知らねど春の雲

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 我の句に我が丸して暖かし

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 夏瘦の筆一本にして遅筆

角 かりかりの焦がしペーコン漱石忌

角 草萌に哀れ弾まぬ打球かな

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長し有難し

角 満天の星に隙間や隙間風

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我こそは吹雪の中の雪達磨

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ

角 石鯀の薄きが割れて夏の果

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 ほころぶの中のほろぶも桜花

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 散ることを今は急がず朧月

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・㊦・21【角川俳句賞2024 プランA 全413】 選50句

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 そしてその水尾も消えゆく秋の水

角 大方の先祖知らねど春の雲

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 我の句に我が丸して暖かし

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 夏瘦の筆一本にして遅筆

角 かりかりの焦がしペーコン漱石忌

角 草萌に哀れ弾まぬ打球かな

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長し有難し

角 満天の星に隙間や隙間風

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ子を産めり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 我こそは吹雪の中の雪達磨

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 青空は光に満ちて花の春

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 良き季語のひとつふたつを屠蘇の酔ひ

角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 ほころぶの中のほろぶも桜花

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 散ることを今は急がず朧月

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・㊦・24【角川俳句賞2024 プランA 全397】 選50句

17行3段組14ポ 2024年4月24日 18:11 へ1 桐10

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 春光のベンチ尊し尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 そしてその水尾も消えゆく秋の水

角 大方の先祖知らねど春の雲

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 草萌に打球弾まぬ恨みあり

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 我の句に我が○して暖かし

角 夏瘦に筆一本の遅筆かな

角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長し有難し

角 満天の星に隙間や隙間風

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ産めりけり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 青空は光に満ちて花の春

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の毛並かな

角 良き季語で良き句作らん屠蘇の酔ひ

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 我こそは吹雪の中の雪達磨

角 ほころぶの中のほろぶも桜花

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 散ることを今は急がず朧月

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・4・29【角川俳句賞2024 プランA 全402】 選50句

17行3段組14ポ 2024年4月29日 14・46 へ1 へ桐10

角 春暁の遠ざかりゆく始発駅

角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな

角 爽やかに翼を広げ滑空す

角 すかすかの東京タワー春の雪

角 母の日や母の育てしものを供花

角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや

角 春光のベンチに掛けて尻ぬくし

角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの

角 そしてその水尾も消えゆく水の秋

角 大方の先祖知らねど春の雲

角 叩かれて鯨の面目なかりけり

角 木の葉とは異なる色の木の葉髪

角 草萌に打球弾まぬ恨みあり

角 峰雲も蛸も骨なく馬鹿力

角 懐しき人になりたや日向ぼこ

角 我の句に我が○して暖かし

角 夏瘦に筆一本で抗しけり

角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌

角 末黒野や雨たつぷりと吸ひ込んで

角 すれ違ふ長き電車や夏休

角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり

角 をさな子にもらうて老も春の風邪

角 お屋敷の片蔭長し有難し

角 満天の星に隙間や隙間風

角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな

角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ

角 数へ日を数へに数へ産めりけり

角 誘はれて摘草に行くその途中

角 転落注意の立札もなし蟻地獄

角 青空は光に満ちて花の春

角 芹なずな蓬も入れて籠かるし

角 下々も下々下々の毛虫の良き毛並

角 良き季語で良き句作らん屠蘇の酔ひ

角 長旅に続く出産初燕

角 夜濯の後の寝しなのミステリー

角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼

角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ

角 石鯛の薄きが割れて夏の果

角 我こそは吹雪の中の雪達磨

角 ほころぶの中のほろぶも桜花

角 送受信終へし朝顔から萎む

角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし

角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな

角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会

角 二転三転三寒四温四捨五入

角 散ることを今は急がず朧月

角 導火線引くやうに揚花火かな

角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

角 夜桜に羽化する人をまのあたり

角 午後からの雨は本降りいよよ秋

2024・5・7【角川俳句賞2024 プランA 全40句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年5月7日 12:00 へ1 桐10

- 角 春暁の遠ざかりゆく始発駅  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 春光のベンチに掛けて尻ぬくし  
角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの  
角 大方の先祖は知らず春の雲  
角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
角 草萌に打球弾まぬ恨みあり  
角 峰雲も蛸も骨なく逞しく  
角 我の句に我が○して暖かし  
角 夏瘦に筆一本で抗しけり  
角 たつぷりと雨吸ひ込んで末黒野は  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 お屋敷の片蔭長し有難し  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 下々も下々下々の毛虫の良き毛並  
角 芹なずな蓬も入れて籠かるし  
角 夜濯の後の寝しなのミステリー  
角 長旅に続く出産初燕  
角 石鯨の薄きが割れて夏の果  
角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 ほころぶの中のほろぶも桜花  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 散ることを今は急がず朧月  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 夜桜に羽化する人をまのあたり  
角 爽やかに翼を広げ滑空す  
角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや  
角 そしてその水尾も消えゆく水の秋  
角 また一つ余命の箱に流れ星  
角 木の葉とは異なる色の木の葉髪  
角 懐しき人になりたや日向ぼこ  
角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌  
角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり  
角 満天の星に隙間や隙間風  
角 数へ日を数へに数へ産めりけり  
角 数へ日を数へに数へ産めりけり  
角 青空は光に満ちて花の春  
角 良き季語で良き句作らん屠蘇の酔  
角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼  
角 我こそは吹雪の中の雪達磨  
角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし  
角 二転三転三寒四温四捨五入  
角 へうへうと枯木は立てり春を待つ

2024・5・7【角川俳句賞2024 プランA 全417】 選243句

- 角 春暁の遠ざかりゆく始発駅  
角 新緑のこだま追ひ抜くひかりかな  
角 すかすかの東京タワー春の雪  
角 母の日や母の育てしものを供花  
角 春光のベンチに掛けて尻ぬくし  
角 薔薇と薔薇早も敵意の如きもの  
角 祖父母より前は知らねど春の雲  
角 叩かれて鯨の面目なかりけり  
角 草萌に打球弾まぬ恨みあり  
角 峰雲も蛸も骨なく逞しく  
角 我の句に我が○して暖かし  
角 夏瘦に筆一本で抗しけり  
角 たつぷりと雨吸ひ込んで末黒野は  
角 すれ違ふ長き電車や夏休  
角 をさな子にもらうて老も春の風邪  
角 お屋敷の片蔭長し有難し  
角 啓蟄の穴と芽吹の緑かな  
角 金魚には金魚の妻や領巾ふりぬ  
角 誘はれて摘草に行くその途中  
角 下々も下々下々の毛虫の良き毛並  
角 芹なずな蓬も摘みし籠といふ  
角 夜濯の後の寝しなのミステリー  
角 長旅に続く出産つばくらめ  
角 石鮫の薄きが割れて夏の果  
角 クレヨンでぐいぐい塗ればチューリップ  
角 送受信終へし朝顔から萎む  
角 ほころぶの中のほろぶも桜花  
角 故郷は三桁の番地盃蘭盆会  
角 子を産まぬ猫と見てゐる桜かな  
角 導火線引くやうに揚花火かな  
角 散ることを今は急がず朧月  
角 午後からの雨は本降りいよよ秋  
角 夜桜に羽化する人をまのあたり  
角 爽やかに翼を広げ滑空す
- 角 針は刺し鉤は引つ掛け露けしや  
角 そしてその水尾も消えゆく水の秋  
角 また一つ余命の箱に流れ星  
角 木の葉とは異なる色の木の葉髪  
角 懐しき人になりたや日向ぼこ  
角 かりかりの焦がしベーコン漱石忌  
角 冬彦さん寅彦さんの忌日なり  
角 満天の星に隙間や隙間風  
角 数へ日を数へに数へ産めりけり  
角 数へ日を数へに数へ産めりけり  
角 青空は光に満ちて花の春  
角 良き季語で良き句作らん屠蘇の酔  
角 舞ひ上る灰の冷めゆくどんど焼  
角 我こそは吹雪の中の雪達磨  
角 炬燵寝の吾子の寝顔を今しばし  
角 二転三転三寒四温四捨五入  
角 へうへうと枯木は立てり春を待つ